

やらずの雨

森野 水琴

雨が降る。男が女の家を駆け込む。金曜日の夜。男が来るのを待ち焦がれたように食事の準備をする。いつもなら、くつろぐはずの男の様子が変だ。妙にそわそわしている。会社で結婚を世話してくれる人がいるらしい。今宵は身辺整理に別れ話をするつもりようだ。

女は黒い布で作られた降る降る坊主を吊した。大雨で男を帰らせないつもりだ。

男が別れ話を始める。号泣する女に呼応するように、やらずの雨が降る。やらせるものか、いかせるものか、と雨が降る。

「今夜は泊まるか」と言って男はくつろぐ。
降る降る坊主が微笑む。夜が更けていく。

翌日も終日の雨。憔悴する男。降る降る坊主が声を殺して笑う。

日曜の朝。まだ降る雨に根負けしたように男は別れ話を撤回する。微笑む女は降る降る坊主を外した。

雨が止み、男は帰った。

次の金曜日の夜も雨が降る。男は別の女の家を駆け込む。軒下の降る降る坊主が勝ち誇る。

女は強い雨脚に溜息をつく。降る降る坊主を片付けて、白い布の照る照る坊主を吊るす。

男は来ない

照る照る坊主が泣きじゃくる

やらずの雨に打たれて泣きじゃくる